

第 72 号

平成 18 年 11 月

子 育 て 施 設 課  
電 話 0823-25-3144

## インフルエンザ “Q & A”

**Q** : インフルエンザはどのようにしてうつりますか？

**A** : 患者の咳やくしゃみなどで空気中に拡散されたウイルスを鼻やのど等気道に吸入することによってうつります。

**Q** : インフルエンザの症状の特徴は？

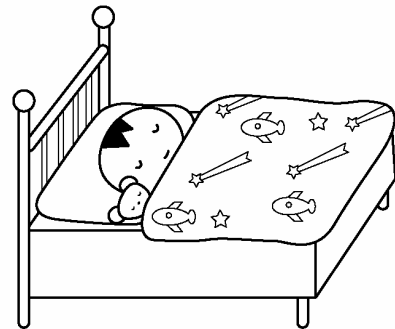
**A** : 突然の高熱、頭痛や全身倦怠感、筋肉や関節の痛みなどの全身症状を伴います。  
始め咳はあまり出ませんが、病気が進むとともに著しくなってきます。乳幼児では、肺炎・中耳炎や熱性ケイレン等の余病を併発することが多くなり、重要な入院の原因となります。また、稀ですがインフルエンザ脳症もあります。



**Q** : 診断はどのように行われますか？

**A** : 最近では、鼻の中・のどをぬぐった物を迅速診断キットを用いて行います。発熱後数時間が診断率が上がります。

今年は7月になってもインフルエンザがみられましたが、その理由のひとつに、これまで夏かぜと言われていた疾患がキットの普及によってインフルエンザと診断されるようになったことが考えられています。



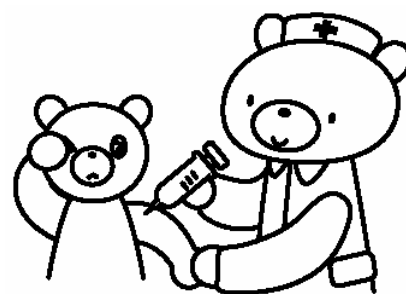
**Q** : インフルエンザにかかったかなと思ったらどうすればいいですか？

- A** :
- できるだけ早く医師の診断を受けましょう。
  - 睡眠を十分にとり、安静にしましょう。
  - 高熱により脱水になりやすいので、水分の補給をしましょう。
  - 栄養のある消化の良いものを摂取しましょう。
  - 室内の湿度は 60～70% に近づけましょう。
  - 1 時間に 1 回程度窓を開けて換気しましょう。
  - 厚着にし過ぎないようにしましょう。



**Q** : インフルエンザワクチン（予防接種）について教えてください。

- A** :
- インフルエンザ予防の基本は予防接種です。ワクチンを接種することで体内に抗体をつくり、インフルエンザにかかりにくくしたり、かかっても重くならないようにする効果があります。
  - インフルエンザワクチン接種は有料です。
  - ワクチンは接種を受けてから 2 週間程度で効果が出はじめ、約 5 か月効果が持続します。
  - ワクチンは、11 月頃から受けられ、1 回または 1～4 週間の間隔をあけて 2 回接種します。
  - 基礎疾患があり、インフルエンザによって重症化しやすい人、集団生活を行っている人はワクチン接種が推奨されます。（かかりつけ医と相談しましょう。）



**Q** : インフルエンザの治療薬について教えてください。

- A** :
- タミフル（薬品名）が有効とされていますが、乳児への安全性は確立されていません。幼児以上については、発症早期（48 時間以内）の服用でなければ効果がありません。服用しても解熱しない等症状が持続する場合は早めの再受診が必要となります。